

会話文のよみわけ練習

名前)

会話文の話しぶりが書いてある文章部分を大文字にしています。
会話文を、大文字のような話しぶりにして表現よみましょう。

昨晚つりばりをしかけておいたあたりに、何かバタバタしている
ものが見えました。

「しめたぞ。」

じいさんはつぶやきながら、むちゅうでかけつけました。

「ほほう、これはすばらしい。」

じいさんは、思わず子どものような声をあげてよろこびました。

これも、あの残雪が仲間を指導してやったにちがいありません。

「うーむ！」

大造じいさんは、思わず、感嘆の声をもらしてしまいました。

大造じいさんは、ガンがどんぶりから、えさを食べているのを、
じっと見つめながら、

「今年はひとつ、これを使ってみるかな。」

と、ひとりごとをいいました。

「おーい。ガンの英雄よ。お前みたいなえらぶつを、おれは、
ひきょうなやり方でやつつけたかあないぞ。なあおい。」

今年の冬も、仲間をつれて沼地へやって来いよ。そうして、おれた
ちはまた、どうどうと戦おうじゃないか。」

大造じいさんは、花の下にたって、こう、大きな声で、ガンによびかけました。

)

